

災害ボランティア活動から学ぶ  
～東北・広島・熊本の連携の現場から



西村仁志（広島修道大学・RQ広島）



# 西村仁志です

西村仁志（にしむら・ひとし）

1963年京都生まれ。

環境共育事務所カラーズ 代表

（環境教育の専門個人事務所経営）

「ヨセミテ国立公園大好き！」[www.yosemite.jp](http://www.yosemite.jp) のサイト運営



広島修道大学人間環境学部教授（2012-）

専門領域：環境教育、ソーシャル・イノベーション

「自然学校」をテーマに研究（博士学位論文）

# 災害ボランティアは

- 1995 阪神淡路大震災 支援
- 2011 東日本大震災支援 (RQ市民災害救援センター)
- 2012 京都から広島に転居
- 2014 広島豪雨・土砂災害支援 (RQ広島・安佐北区災害VC)
- 2016 熊本地震災害支援 (RQ九州)
- 2018 西日本豪雨災害 (RQ広島・安芸区災害VC)

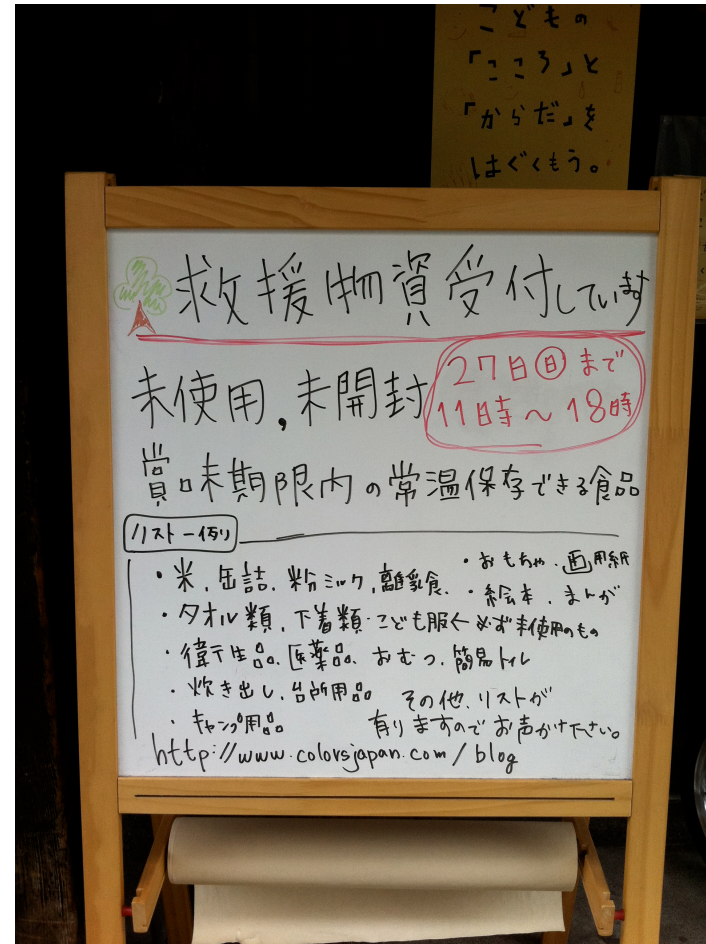
# 東日本大震災 2011.3.11





# 京都からの物資支援活動をスタート

2011年3月22日～28日



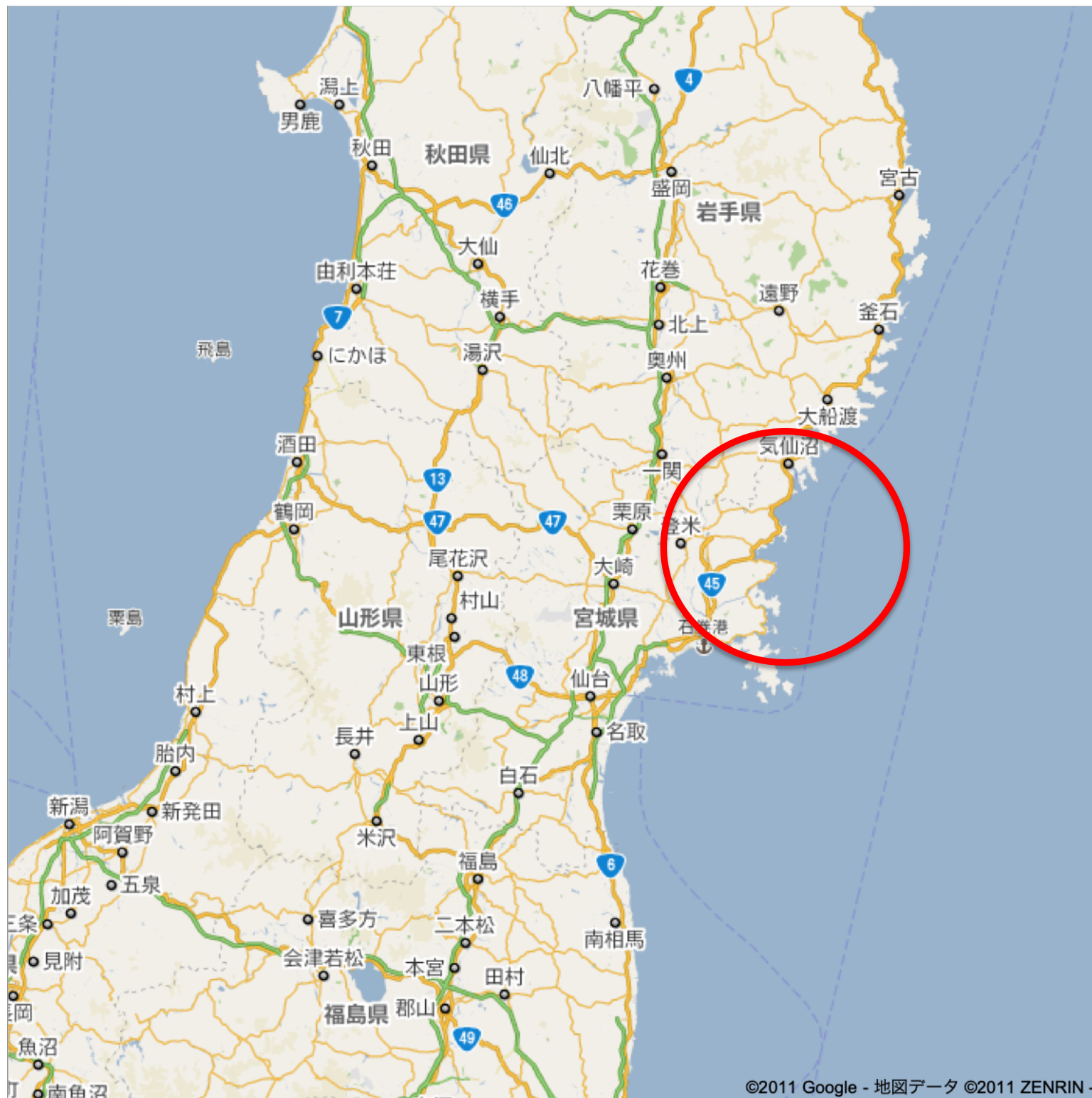
支援物資 221箱を送る



# 4月28日にようやく現地入り 宮城県南三陸町～気仙沼市









# RQ市民災害救援センター

- 東日本大震災の被災者救援のために、3月13日に発足した任意団体。(略称「RQ」=レスキューの略)
- 「NPO 法人日本エコツーリズムセンター」の関係者が中心。(西村は世話人の一人)
- 全国のエコツーリズム実践者・自然学校のネットワーク
- 野外教育や自然体験活動で培ったスキルを活かし公的支援の手が届きやすい大きな避難所ではなく、被災者と対話しながら刻々と変わるニーズに応じた支援活動を行う。

のちに「一般社団法人RQ災害教育センター」へ





唐桑ボランティアセンター  
(気仙沼市唐桑地区)

小泉ボランティアセンター  
(南三陸町小泉地区)

歌津センター  
(南三陸町歌津地区)

東北現地本部  
(登米市)

河北ボランティアセンター  
(石巻市河北地区)



- 3月、物資支援からスタート
- 子どもたち、お年寄りのケア、温泉送迎、サロンづくり
- 被災住宅の片付け、仮設への引っ越し手伝い
- ボランティアの「自発性」、「創造性」から
- RQにやってくる人々の「人間力」





**現地ボランティアは延べ33,120人  
RQ東京本部ボランティアは延べ3,366人  
12歳~72歳の多様な世代、世界19カ国から  
7,732万円(2011/11/30まで)の活動支援金  
約400トンの救援物資を550の拠点に手渡す**



# 被災地の方々へのライフストーリーの聞き書き活動





# RQ子どもキャンプ／親子キャンプ



# 東日本大震災から

—現地で支援活動をしてきた体験から—

- 東北、三陸海岸の豊かな自然資源
- 自然の恵みをいただく「暮らし」の智恵との出会い
- ボランティアを契機とした、「市民」同士の交流（作業者×）
- 「自主的」で「創造的」な救援活動



- 被災地支援ボランティア活動自体が、大きな「出会いと学びの場」になっているということ。
- 「身体が反応して動く」ようになる。
- 活動した場所への愛着やこだわり。



# 東日本大震災から —社会的な視点・マクロな視点で—

- 南北500kmにもわたり数々の沿岸部都市、集落の津波被害。
- 深刻化、長期化する原発事故被害。



- 暮らし方、生き方、社会のあり方について考えるターニングポイント。
- われわれと、水、食料とエネルギーとの関わり。
- それらの源泉である地球、自然、地域、土地や場所との関わり。ともに暮らしつづけるための智恵。

# 2014.8 広島市土砂災害





# 安佐北区災害VC・運営の秘訣

- 地域之力（地縁組織・地元NPO）
- 外部専門家・経験者之力
- 受援力（社協）
- 大学生之力





# 2016.4 熊本地震





# 2018.7 西日本豪雨災害

## 広島市安芸区矢野地区・安芸郡坂町



「余計なことをしないで何の人生か」



自分の家はべつに無事なのに、  
自分の職場も、仕事も、何にも変わらないのに、  
わざわざ行かなくても、  
現地のことはテレビや新聞で、報道されるのに、  
何もしないでも、淡々と日常は過ぎていくのに、

しかし、  
「余計なこと」をするからこそ、  
いっぱい「糊しろ」ができる。  
「余計なこと」をするからこそ、  
「未知の世界」がわかり、自分の成長がある。  
「余計なこと」をするからこそ、  
ほんのすこしは他人のお役にたてる。  
そして、また次の災害でもお役にたてる。  
のではないかと思います。



ご清聴ありがとうございました。

